



私達が創る信頼の医療

1971年の設立以来、新生会第一病院は多くの人の力が礎となっていました。世の中は刻々と変貌を遂げています。我が国の医療福祉の動向も刻々と変貌を遂げています。しかし、医療の基本は変わりません。患者様一人一人と向き合い、気持ちを通じ、適格な医療を行うことです。

2018年5月、新生会第一病院は天白区高宮町に移転しますが、新しい地に信頼される医療の確立をめざし、一步一步歩んでいきたいと思えます。

院長 小川 洋史

写真：安芸の宮島(広島県) (撮影：小川 洋史)



わが国の透析医療と新生会の関わりについて

新生会第一病院 院長 小川洋史

1967年にわが国の透析医療に健康保険が適用されました。そして、1971年に新生会第一病院は開設されています。創立当初の名称は名古屋クリニックであり、透析患者の生命維持、社会復帰の推進を目標に掲げていました。開院当初より、夜間通院透析に力を入れていたこと、ソーシャルワーカーによる社会的援助、管理栄養士による栄養・食事指導、新生学舎にて体力訓練・リハビリを行っていたことは、当時としては画期的なものであったと考えます。

さらに画期的なことは、この日本の透析の黎明期に家庭透析を企画し、また、そのシステムを作り軌道に乗せていたことであります。家庭透析は最近漸く注目されるようになりましたが、当院はフロンティアであり、当院が果たした役割は大きなものがあります。多くの諸先輩の努力により今日の礎が築かれました。諸先輩や関係された方々に感謝申し上げます。

当院、及び、わが国の透析の歴史、現状などについて記します。保険適応以前の透析医療においては、その医療費負担額は膨大であり、治療を受けられずに尿毒症で亡くなった方が多く存在したことは、医療者、患者共に心に刻むべき歴史です。

わが国の透析医療の歴史と新生会

- 1967年 12月 人工腎臓の保険収載
- 1971年 7月 名古屋クリニック設立(現 新生会第一病院)
- 1972年 6月 当院において家庭透析(HHD)管理体制設立。HHD訓練開始
- 1972年 10月 身体障害者適用と厚生医療の開始
- 1979年 12月 名古屋クリニックより新生会第一病院へ改称
- 1984年 10月 高額療養制度設立
- 1988年 6月 十全クリニック開設
- 1998年 4月 HHD保険収載
- 2006年 1月 新生会第一病院において療養病棟(45床)開設。一般病棟は51床となる

けんこう 百花89号

新生会 情報誌

#IOSPY

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

統計(わが国の透析医療の現状:日本透析医学会)からみえること

わが国の透析医療の現況(日本透析医学会)には1968年末からの統計が報告されています。

- 1) 透析患者数の増加。2015年12月末で324,966人だが、1968年は215人であった。
- 2) 2008年から2015年にかけて、導入患者数は横ばい状態(約38,000~39,000)だが、死亡患者数は年々約1,000人ずつ増加している(2015年 約31,000人)。よって、透析患者数の増加幅は年々減少している。
- 3) 平均導入年齢は年々上昇し、平均69.2歳(2015年12月現在)であった。
- 4) 透析歴10年以上の長期透析患者数は25.3%と4分の1を超える。
- 5) 原疾患としては、糖尿病、腎硬化症が増加。導入原疾患では、糖尿病腎症が1998年に慢性糸球体腎炎を抜き、その後の増加も著しく、2009年には全体の44.5%となった。しかしその後は横ばい状態で、2015年は43.7%であった。
- 6) 長期生存率(20年、25年、30年生存率)は低下傾向にある。
- 7) 死亡原因は、① 心臓病(心不全、心筋梗塞)、② 感染症、③ 悪性腫瘍の順である。
- 8) 国民100万人に対する透析患者数は増加⇒慢性腎臓病(CKD)対策の重要性。
- 9) 日本透析医学会の推計によると、透析患者は2022年に348,873人で最大となり、その後漸減する。

透析医療の進歩

1988年、透析アミロイドーシスの原因を $\beta 2$ -ミクログロブリンと同定。

(新潟大 下条文武先生)

世界に誇る研究成果だった。以後、 $\beta 2$ -ミクログロブリンの除去にむけて、ダイライザの開発、HDFなどの治療法の進展につながった。透析医療に多大な福音をもたらした。



透析液の清浄化

透析液中のエンドトキシンが慢性炎症を惹起し、貧血、動脈硬化を発症することが報告され、2008年より透析液清浄化対策が全国的にとられるようになった。

治療薬の開発

- 1) 赤血球造血刺激因子製剤(ESA製剤)
貧血が改善され、輸血の必要性が皆無になり、B型・C型肝炎の発症が大幅に減少した。透析医療に多大な福音をもたらした。
- 2) 活性型ビタミンD製剤
慢性腎不全の骨代謝の改善、副甲状腺ホルモンのコントロールに関与し、腎性骨代謝障害の改善をもたらした。
- 3) P(リン)吸着剤
日本透析医学会のガイドラインでは、P高値は生命予後悪化、異所性石灰化沈着に関与しているため、P値を6.0mg/dl以下にコントロールすることが必要と記載あり。現在、多種類のP吸着剤が保険適応になっている。
- 4) Ca(カルシウム)受容体作働薬
Caの調節骨代謝に関わる副甲状腺ホルモンのコントロールに関与する。日本透析医学会のガイドラインではインタクトPTH(副甲状腺ホルモン)値を240 pg/mL以下にコントロールすることが必要と記載あり。

透析がから版

毎年、患者会「わかば会」の総会が行われる場で、病院の行事として、透析30年・40年を迎えられた患者様を表彰してまいりました。折角の機会ですので、40年の3組の患者様、家族の方に話をいただきました。また、40年間詰まっていないシャントの話も聞くことができました。生命を維持するための判断、思い、大変な決断だったと思います。良いお話を有難うございました。

新生会第一病院 院長 小川洋史



加藤操様:先生に勧められて家庭透析を始めた。自分が自営業をしていたので、合間を見て透析ができる、通院しないでいいという利点。水分・カリウムには気を付けていたが、他は気にしないで食べたいものを食べていた。二年前まで、趣味もフラダンス・弓道をやり、海外旅行にも行きました。

旦那様:透析は5年と言われていたが、5年が40年にもなったから、いい時代を迎えた。人間が緩いから細かいことは気にならない、きっちりには苦手。介助も回路をつなぐだけで苦痛ではないです。

山田登紀子様:透析導入時から、水分・カリウム・リンは厳しく言われていた。増えも0.5kgと厳しかった。シャントも、一回作ってから40年一度も手術せず、シャントは財産。手根管手術をして手が曲がらなくなり、お勝手をやろうとしたら「そんな手でやってたら自分の手を切っちゃうぞ、俺がやるからお前はやらないで」と言われ、主人が2年お料理学校に通い、今でも夕食は主人が作ってくれます。それが一番の感謝です。

旦那様:透析とはどのようなものか不安でいっぱいだった。色々な経験から物事を前向きに考えてくれるようになり、私を後押ししてくれた。専業主夫が恩返し。



熊崎すえ子様:透析導入時、足に外シャントを作り、透析は自分の誕生日に導入した。自分で食事の管理をしていたが、子供が大きくなり食事を一緒に作り説明をしながら、透析とはこういう事だとか、こういう苦勞をしてきたと話しながら過ごしてきた。

旦那様:最初足から透析をやるとのことです戸惑った。食事の管理が厳しく、模索して管理していた。長生きしてもらってありがたい。色々本人から透析のこと聞きますけど、健康っていいなっていつも思います。

40年の長きにわたる透析生活のお話、大変感銘を受けました。透析を始められたところは現在の15分の1の患者数と透析自体がまだ特殊な治療であった時代で、透析治療の進歩だけでなく患者さんの日々の自己管理の賜物だと思います。皆さんのお話の中から、3者3様ですが長期間の透析を可能にするいくつかのヒントを教えられました。それは体重管理をしっかりすること、長時間透析、(患者さんだけでなく家族も含めた)精神的なリラックスなどでしょうか。これからも元気で透析を続けられることを祈っています。

十全クリニック 院長 長屋 敬

新築移転のお知らせ

2018年春、新生会第一病院は新築移転します。
 新病院移転先:天白区高宮町1302



【交通のご案内】
 名古屋市市バス
 「一ツ山住宅口」下車徒歩3分

- 地下鉄新瑞橋駅
 神宮11系統(島田一ツ山行、相生山住宅行)
- 地下鉄鳴子北駅
 鳴子11系統(地下鉄植田行)
- 地下鉄植田駅
 植田11系統(地下鉄鳴子北行)
- 地下鉄八事駅
 八事12系統(島田一ツ山行)

オープンセミナーのご案内

2018年2月3日(土) 13:30~15:00 (受付13:00~)

内容は後日お知らせします。

場所:新生会第一病院 集会室 お問い合わせ:052-832-8411 (担当:甲斐、杉浦、瀬井)

新生会第一病院 外来診療体制表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
腎臓内科	午前	○	○	△	○	△	○
一般内科		○	○	△	○	○	○
整形外科・リウマチ科		○	○	△	○	△	○
糖尿病内科・内分泌内科	午後	○	○	△	○	○	△
リハビリテーション科	※	○	○	△	○	○	○

診療時間:

午前 9:00 ~ 12:00 (受付時間 8:30 ~ 11:30) / 午後 13:30 ~ 16:30 (受付時間 13:00 ~ 16:00)
 (曜日、科により診療時間に変動あり)

◎糖尿病内科の日に糖尿病栄養外来、糖尿病看護外来を実施
 ◎リウマチ相談窓口あり

※リハビリ実施時間:

午前 9:00 ~ 12:00 / 午後 13:00 ~ 16:00

人工透析内科、透析ベッド 46 床、午前の部、午後の部あり

新生会第一病院

住所 〒467-8633 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2

電話 (052)832-8411 FAX (052)832-9063

ホームページ <http://www.hospny.or.jp/shinseikai/>

※当院外来では、予約制を実施しております。(初診の患者様、急変した再診の患者様、又、再診の方でも急に受診日を変更したい場合等は、予約がなくても受付けますので来院ください)

